

世界遺産をめぐる南イタリアの旅

生8-文 久保 知彦



立派なホテルもある洞窟住宅「サッシ」の町

八生会（生環8期生）有志による「世界遺産巡る旅」はアンコール遺跡、中央ヨーロッパに続いて3回目となります。今回は19名で南イタリアを訪ねました。

イタリアの世界遺産は40を数え、国としては世界最高となります。イタリアは歴史のある国です。日本の縄文時代や弥生時代の頃には、すでに優れた文化が始まり、壮大な建築物が出来上がっています。その中で、繁栄・侵略・滅亡・再建の歴史が繰り返されてきました。

今回訪れたのは、ナポリを起点として、カプリ島、ポンペイを見学。東側に移動して、マテーラとアルベロベッロを訪問。そこから南下してシチリア島に渡り、タオルミーナ、アグリジェント、パレルモ、モンレアーレというコースを訪れました。

ナポリ・・・歴史地区は世界遺産に登録されていますが、ここは宿泊してバスで一巡するだけに終わりました。（世界遺産）

カプリ島・・・「青の洞窟」で有名ですが、それだけでなく風光明媚な観光地

です。

ポンペイ・・・ヴェスヴィオ火山の噴火で埋もれた町です。発掘が進んで多くのことが明らかになりました。ほんの一部しか見ることができませんでしたが、古代にこんな都市計画が存在したことに驚きます。（世界遺産）

マテーラ・・・洞窟住宅「サッシ」の町です。古くから、岩盤に掘り抜かれた洞窟がやがて都市を形成し現在に至っています。（世界遺産）

アルベロベッロ・・・NHKテレビで紹介され、一躍有名になった「トゥルッリ」というトンガリ屋根の住宅が立ち並ぶ町です。石灰岩の板を屋根に積み上げたて作られた家屋で、厚い壁が防寒・防暑に役立っています。（世界遺産）

タオルミーナ・・・ギリシャ時代に造られローマ時代に改修された「ギリシャ劇場」が有名で、いまでもイベントに使われています。

アグリジェント・・・「神殿の谷」には、かつてギリシャ時代の神殿が立ち並んでいました。その一部が残っています。風化が進んでいる

ので修復が行われていました。（世界遺産）

パレルモ・モンレアーレ・・・パレルモは南イタリアのナポリに次ぐ都会です。豪華なモザイクの装飾のある聖堂などが見られます。

短期間でしたが多くのことを学びました。これらの遺産は長い歴史の中で、破壊され改築されたりして現在に到っています。

私達はこれらのほんの一部をただにすぎません。時間が許せばゆっくり見たかったし、他の世界遺産についても見学したかったです。世界遺産には登録されていなくても価値あるものがあります。

また、イタリアの人々の生活の様子や人間性もうかがうこともできました。そのいくつかを紹介します。北部と南部で多少の違いはあるかもしれませんが、全体に人々の生活は質素に見

えました。

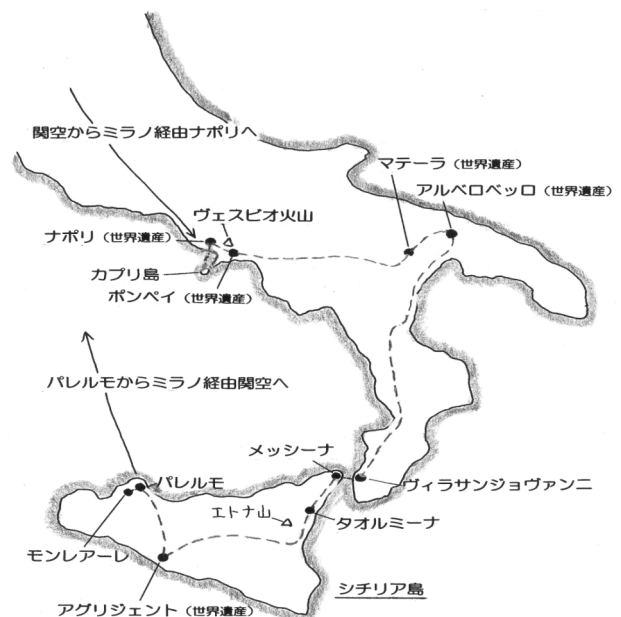
乱暴な車の運転には驚きました。特にナポリ市内では2車線なのに3車線なみに走っていました。

集合住宅のベランダの外側に洗濯物が干してありました。雨が降ったらどうするのかと思ったら取り込まずに晴れて乾くまで放置するとのことでした。

驚いたことに5階のベランダからカゴをスルスと下ろして買い物をする風景を見ました。（次頁に続く）



スケッチはアルベロベッロのトンガリ屋根の住宅街



南イタリア（-----は旅行経路）